

平成 27 年 7 月 21 日

平成 27 年 7 月度例会

先史古代研究会 事務局 山崎泰二

月日 7 月 21 日(火) 13 時 30 分～16 時 30 分
会場 ゆうあいセンター NPO 会館 2 階研修室
参加費 資料代他 500 円

発表

第一部 丸谷憲二 テーマ 「日本神道の起源を考える」

① 吉備津神社七十五膳据神事の七十五の起源についての考察

吉備津神社に七十五膳据神事という献饌行事がある。備中国内の諸郷から新穀をはじめとする産物を一宮である吉備津神社に献納し感謝するお祭りとして説明されている。300メートルに及ぶ廻廊の端にある御供殿(ごくうでん)から、七十五膳や神饌、神宝類、奉供物を前日までに準備し、それぞれの膳には春は白米、秋は玄米を蒸して円筒形の型にはめて作った御盛相(おもっそう)を中心に鯛や時節の山海の珍味で四隅をはり柳の箸がそえてある。

① 龍蛇様(背黒海蛇)から見える出雲の神迎祭と神在月

出雲地方では出雲大社、佐太(さだ)神社、日御碕神社、神魂(かもす)神社、売豆紀(めづき)神社、多賀神社、朝山(あさやま)神社、神原(かんばんら)神社、出雲大社北島家の「龍神講祭」と、「万九千(まんくせん)神社」でも、旧暦 10 月に、海辺に打ち上げられた背黒海蛇を神の使いとして奉納する神迎祭という儀式がある。暖流に乗って回遊してきたセグロウミヘビが、ちょうど同時期に出雲地方の沖合に達することに由来すると説明されている。出雲大社の社紋「亀甲紋」は龍蛇神・セグロウミヘビの尾に浮かぶ亀甲模様が原型とされている。なぜ、セグロウミヘビと神在祭という儀式が結びつくのか。龍蛇(りゅうじゃ)から見えてくる出雲の神在(かみあり)月と神迎祭(かみむかえさい)について考察したい。

第二部 井上秀男 テーマ 「平賀元義の足跡と歌碑について」

元義は万葉調の歌風で県内の美作、備中、備前の各地を放浪の旅をしながら、数多くの歌を残しています。元義の足跡と歌碑について「きび考 10 号」に寄稿しています。資料の内容についてスライドを使用して説明します。

第三部 意見交換会

先史古代研究会 事務局 山崎泰二

携帯電話=090-3746-3819 パソコンメール=top@bosaisystem.co.jp

